審議ポイント標準項目一覧

【再評価】

※注1）事業費：上段は今回、下段は（前回）

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化用地着工工事着工	概成目標年	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益費 EIRR	社会情勢の変化	備考
河川	1	岩手	北上川上流河川改修事業（一関遊水地）	再評価後5年	再評価後5年	H15	S47 S47 S48	H30年代後半	2,700 (2,700)	56.5%	5.1	5.2	15,499.8	10.92%	・地元自治体や市民では、中尊寺などの奥州藤原氏の文化遺産を、世界文化遺産登録に向けて、景観条例の制定や遺跡の保全など進めている。	・H18に市街地を洪水氾濫から防御する周囲堤が概成。引き続きH18から遊水地内の優良農地を中小規模洪水から防御する小堤整備に着手。

※注1）事業費：上段は今回、下段は（前回）

事業名	NO	県	事業箇所名	評価対象理由	前回評価時の評価理由	前回評価年	事業化用地着工工事着工	概成目標年	事業費（億円）※注1）	進捗率	費用便益比 B／C 今回	費用便益比 B／C 前回	純現在価値 NPV（億円）	経済的内部収益費 EIRR	社会情勢の変化	備考
砂防	1	福島	阿武隈川水系直轄砂防事業（荒川・須川流域）	再評価後5年	―	―	S11 S11 S11	H40年代以降	794 (-)	36.5%	13.4	―	5,975.3	26.2%	・国土交通省の水質調査において平成19年に3年ぶり日本一（7河川の内の1河川)となっている。東北では5年連続で第1位を保っている。 ・平成20年6月環境省によって平成の名水百選に荒川が選ばれた。 ・荒川の砂防施設15基が登録有形文化財（文化庁登録）に登録された。	・当面の目標として、H20に荒川遊砂地整備が完了したことから引続き塩の川（荒川流域）、須川（須川流域）のえん堤整備を継続する。 ・その他の渓流については山地・渓岸の崩壊状況や土砂流出状況を考慮しながら、砂防施設の整備を行う。
砂防	2	山形	最上川水系直轄砂防事業（立谷沢川流域）	再評価後5年	―	―	S12 S12 S12	H40年代以降	1,233 (-)	49.7%	2.7	―	1,541.7	8.3%	・平成18年度に庄内町において立谷沢川流域の現状と課題、時代の方向性と発展の可能性を捉えて流域の振興を図るための地域計画として「庄内町立谷沢川流域振興基本計画」が策定され、治山治水事業の整備促進が上げられている。 ・平成20年6月環境省によって平成の名水百選に選ばれた。	・当面の目標として、瀬場より上流域では土砂生産量の多い濁沢等を優先して整備を実施する。 ・下流域では土石流危険渓流対策を実施し、土砂流出状況のバランスを見ながら上～下流域で砂防施設の整備を行う。
砂防	3	山形	最上川水系直轄砂防事業（角川流域）	その他	―	―	S37 S37 S37	H30年代	329 (-)	67.6%	6.7	―	1,698.2	22.1%	・特になし	・当面の目標として、角川上流や左岸の整備率100%へ向け、新規施設や機能改善を実施する。 ・角川右岸は既設えん堤の嵩上げや新規えん堤の整備を行う。 ・角川本川は、土石流危険渓流対策を実施する。
砂防	4	岩手	八幡平山系直轄火山砂防事業(岩手山)	10年継続中	―	―	H10 H10 H10	H30年代	229 (-)	32.9%	1.8	―	139.5	8.5%	・避難等の防災対応に結びつくよう新たなわかりやすい区分に改善された「噴火警戒レベル」が、全国108の活火山のうち、岩手山を含む16火山に平成19年12月1日より導入された。	・段階整備の目安として、1／10年超過確率降雨による土石流を対象とした施設整備を進め、その後順次計画規模（1／100年超過確率降雨）対応の施設整備を行う。

【事後評価】

・審査事業無し